

平成 26 年度みんなで支える森林づくり大北地域会議（第 1 回）議事録

1 開催日時 平成 26 年 6 月 23 日（月）13 時 30 分から 15 時

2 開催場所 大町合同庁舎 講堂

3 出席者

・委員：浅見昌敏（座長）、勝山隆之、香山由人、菅沢由美、丸山美栄子、嶺村和徳、
鷺沢恒夫（以上 7 名 五十音順で掲載）

・北安曇地方事務所：加藤林務課長、他林務課職員 6 名（以上 7 名）

4 会議事項

(1) 開会

(2) あいさつ（加藤林務課長）

本日、地方事務所長他の会議出席のため私が代わってごあいさつ申し上げます。平成 26 年度大北地域会議にお集まりいただき大変ありがとうございます。

本日から勝山池田町長に新しく委員となっただきました。大北地域の緑化推進協議会会長として市町村の代表ということで会長になりましたので、平林松川村長との交代にともないまして本日から当地域会議の委員として委嘱しました。

森林税の活用事業の実績は、間伐を始めとした森林整備が主な事業で、県全体では目標の 80%弱となっていますが、当管内では 70%弱の達成率となっています。県も当管内も計画量に達しなかったのは、国の補助制度が搬出間伐等の条件がつくなど、事業内容が変わってきたことも影響していると考えています。

木育推進事業については、木材を利用した地域の取組みについて支援するものですが、関係する市町村や団体からの要望により計画されているので、それぞれの内容を後程ご相談申し上げます。

第 2 回目の地域会議は、視察・現地調査等を兼ねて実施する予定です。普段から森林税の使い道を確認していただきながら事業の実施等について御意見を頂戴したいと思います。

今年度長野県独自で「信州 山の日」を制定することになり、7 月 15 日から「信州 山の日月間」が設けられます。また、7 月 27 日に記念イベントが開催されます。

来年度「ふるさと森林づくり県民のつどい（県植樹祭）」が大町市内で開催される予定で、さらに再来年度の全国植樹祭が長野市をメイン会場で開催されますが、地方事務所単位で全国植樹祭に併せた取組が求められています。大きな行事が続きますので、その場を利用して一般の県民に対する森林整備や木材の利用などの啓発をしていきたいと思っています。

以上簡単ではありますがあいさつとさせていただきます。

(3) 委嘱状の交付

勝山隆之池田町長へ委嘱（大北地域緑化推進協議会長への就任による。）

(4) 議事

○ 平成 25 年度大北地域森林づくり県民税活用事業実績（事務局説明）

【浅見座長】 説明は終わりました。皆さんからご意見を出してください。

【香山委員】 森林づくり推進支援金の少し具体的な内容の説明をお願いしたい。

【事務局】 大町市は松くい被害木の駆除を実施、池田町は基本枠で森林整備事業への補助金の嵩上げ、重点枠では庁舎へのペレットストーブの設置や、松くい被害防除用の薬剤購入費への補助などを実施しています。松川村は松くい被害木の早期発見・駆除に取組み、白馬村では森林整備事業への補助金の嵩上げ、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ対策、野生鳥獣に対する緩衝帯整備に使い、小谷村においてはナラ枯れ対策、緩衝帯整備を実施している。

【浅見座長】 事務局として実績について感想はありますか。

【事務局】 管内の松くい虫被害及びナラ枯れ被害の病虫害対策については、地域の大きな課題として取組んでいただきありがたいと感じている。

【香山委員】 推進支援金事業は、市町村が事業主体であり何をしているのか見えにくいところもあるが、以前のこの会議の場で、既存補助事業への嵩上げがほとんどであり、もっと地域としての特色を出す工夫をして欲しいとお願いしたところであるが、今回は特色が出てきているので、県民に対して、こういうことをやってきたとのわかりやすい説明をしてほしい。

【加藤課長】 後ほど 25 年度森林づくり推進支援金の市町村別データを提示させていただく。

○ 平成 26 年度大北地域森林づくり県民税活用事業計画（事務局説明）

【浅見座長】 最初に森林づくり推進支援金に対してのご質問意見をお願いしたい。

【香山委員】 推進支援金は地域会議で審議できる数少ない対象であり、市町村要望としては必要な事業が上げられていると思うが、地域の実情に合わせたという観点から大町市は森林面積も大きいのにメニューが一つしか計画されていないのは寂しい気がする。池田町のように、限られた財源の中でも、複数のメニューを計画している良い例もあり、参考にしてもらえればと思う。今まで育ててきた森林を今後どう利用していくのか、県民の目に見えるようにすることが望ましい。

【事務局】 大町市は基本枠と重点枠の両方とも松くい対策としているので一つのメニューとなっている。ご意見として伺い、今後市町村へ提案していきたい。

【浅見座長】 木育推進事業について意見ありますか。

【菅沢委員】 森林税を使う事業を新しく実施することで新たな雇用が創出されているのか、そのような実績があり将来が見えるような広がりがあるのであれば、資料で示して欲しい。またフォレストコンダクター育成事業というのが県の事業であるが、一年間で育成するのか。

【事務局】 そのとおり。

- 【菅沢委員】人材が生まれているということであり、そこからどのように発展し、生かされていくのかがわかれば良いと思いました。大町市は松くい対策に重点を置いているのは解るが、新しい雇用につながるような事業が実施されればいいのではないかと感想を持ちました。
- 【加藤課長】雇用については具体的ではないが、森林税は森林整備に8割充てていることで、森林組合や林業事業者において間接的には雇用が生まれているのではないかと考えている。
- 【事務局】フォレストコンダクター育成事業は、組合や事業者の中核的な職員に、経営感覚を持った林業者になっていただくための個別の研修をしていただくという事業であり、大北地区では昨年度香山委員に受講していただいている。
- 【香山委員】県の信州の木振興課（今年から信州の木活用課に改名）により実施されている研修で、全体で行う集合研修及び個人で企画する研修があり、実績について県庁へ報告書を提出しているのので、それを各委員にも提供したいと思います。研修を受けたら終わりではなく、今年も月に一回レポートの提出を求められています。
- 【丸山委員】松くい虫被害が拡大しており、この予算で対応できるのか心配している。内容を見ると単価が15万円/本と高いものもあるようだが。
- 【事務局】森林づくり推進支援金で実施している松くい虫対策については、墓地に隣接する箇所での伐採など、特殊な場所における伐倒駆除のため単価が高くなっている。通常の駆除については28,000円/m³くらいで他の事業で実施している。昨年管内では2,500m³処理した。池田町では、駆除ではなく、更新伐ということで、樹種を転換していく対策に切り替えている。
- 【事務局】空中散布、伐倒駆除、樹種転換などいろいろ組み合わせて被害対策をとっている。
- 【丸山委員】素人がみても対策が追いついていないように見えるが大丈夫か。
- 【加藤課長】池田南部から被害が拡大しており、昨年大北地区全体で1億円ほど対策を実施している。財政上の限界があるため、広がっている部分があるのが現状である。大町市では補正予算を編成していただき、建設事務所で管理している河川敷部分での駆除について予算付けもしてきており、行政としても目いっぱい対応してきてはいる。
- 【丸山委員】空中散布の効果は非常にあるのではないかと思うがどうか。
- 【加藤課長】上田地域等で空中散布をしていたが、住民の健康被害の訴えがあり中止した後、被害が拡大したと聞いている。また坂城町でも一時空中散布を中止したら隣接の千曲市に被害が拡大した経過もある。八坂地区でも3ヘクタールほど実施しており被害が発生していないが、周辺では発生している状況もあり、一定の効果は認められている。

【香山委員】全国的に松枯れ対策の時期が遅い。松が青いうちに対策を取らなければだめで、枯れたマツを6月に入ってから伐倒駆除してもカミキリムシが出たあとであり、ほぼ景観整備であるとか、倒木の危険性の除去にしかになっていない。松林自体は、森林の成り立ちの中では初期段階にあり、森林が成熟していけば自然に少なくなっていくものであり多少やむを得ないところはある。やるなら池田町のように数年間前倒しで樹種転換を行わなければ意味がない。空中散布については、健康被害の問題があり非常に難しいところでもあり、空中散布だけで防除するのは無理であると思う。

【浅見座長】28,000円/m³も使って被害木の処理をするくらいなら、若干の補助金を付けてでも健全な木を伐採搬出した方が結果として安いのでは。そういう方式を検討した方がよいのではないか。

【香山委員】塩尻市に信州Fパワープロジェクトとして長野県初の大規模製材工場ができる。今年の11月20日から木材の受入が始まりアカマツが重点となっている、来年枯れるかもしれないアカマツを伐って先行して持っていくとお金になる。折角新しい工場ができるので有効に活用すべきである。

【勝山委員】森林づくりの認識を深めるために、大北地域の子供の卒園時等に机や椅子などの木製品をプレゼントしていくことで、将来大人になって森林の大切さを意識することができるのではないかと思うので、この予算の中で実施できないか。

【加藤課長】木育事業として、机の天板や小さな椅子をプレゼントするなどの取組みを参考に、市町村の要望等を聞きながら検討していきたい。

【香山委員】この会議の枠組み以外での話ではあるが、木育等の事業に関しても具体的な計画をする市町村の担当者への情報が足りないので、先進的な取組みについての勉強会などを実施して推進していかないと毎年同じ内容になってしまう。

【菅沢委員】予算の枠、年度という主婦感覚とはずれた手枷足枷があるのを感じたが、信州フォレストコンダクターのように経営感覚を備えた人材が今年も一人増えるということで、有り余るほどの大北地域の森林資源を有効に活用するアイデアが生まれることが期待される。

【加藤課長】コンダクターを始めとして、いろいろな知識や考え方をを持った人がいるので、情報を吸い上げて発信していきたい。

【鷺沢委員】森林税について、森林整備予算のうち税収入がどのくらいなのかが見えないが。

【事務局】配布してある昨年度末の県民会議時の資料に記載されている6億3千万円余の金額が森林税収入に相当する。

【浅見座長】計画を了承するというところで会議を閉じたい。

○その他

・今後の地域会議について

【事務局】 2回目の会議については、年度末（2～3月）に現地調査と併せて実施することを検討しており、詳細については今後調整させていただく。

【香山委員】市町村の担当者と地域会議のメンバーとの意見交換の場を設けてほしい。

【加藤課長】検討させていただきたい。